令和４年１月号

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月１で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。

気象防災アドバイザー

Yoshiaki　Yano

降水確率 40 パーセント　傘を持っていきますか？

出勤前などに天気予報をチェックされる方も多いのではないでしょうか。そのとき傘を持っていくかどうかの判断に、“降水確率”を参考になさっていらっしゃいますか？

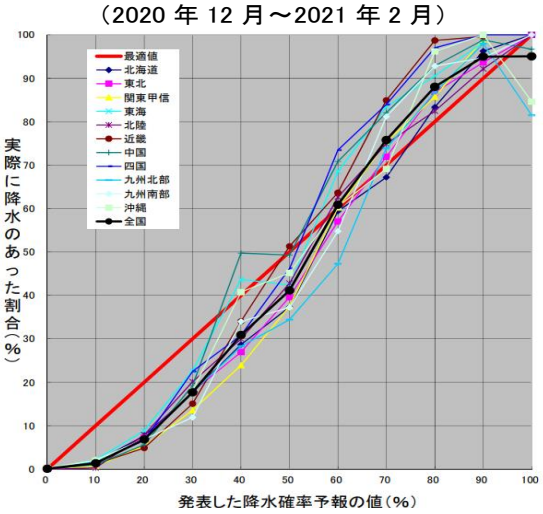
東京地方の天気予報の中で「降水確率」が発表されるようになったのは 1980 年、もう 40 年以上にもなり、日々の生活の中に溶け込み活用されているように感じます。

降水確率は、**“予報対象となる区域内で一定の時間内に、降水量にして１ミリ以上の雨または雪の降る確率（%）の平均値”**を意味し、0、10、20、…、100%の 10%単位で表されています。雪も降水の中に含み、解かしたものを雨量に含め取り扱われます。

気象庁が発表する今日･明日の天気予報の中では、00～06 時、06～12 時、・・・と 6 時間ごと、週間天気予報では明後日以降の１日(24 時間)ごとの降水確率が発表されています。

降水確率 40%とは、40%という予報が 100 回発表されたとき、その内のおよそ 40 回は１ミリ以上の降水があるという意味で、降水量やその強さ（小雨や強雨）を予報しているものでも、予報対象区域の 40%の面積に降ると意味しているものでもありません。１ミリ以上の雨または雪の降る確率であって、起こり得る現象は１ミリ以上“降る”か“降らない”かの２つに１つで、“降る”が起こる“確かさ”を確率として示しています。“降らない”確率は自明ですので敢えて発表されていません。

24 時間先までの降水確率予想の精度
（2020 年 12 月～2021 年 2 月）



６時間単位の降水確率予報に対して、実際に1mm 以上の降水があった割合を示し、赤い実線は最も良い降水確率を発表した場合を示しています。

受験を例にとって解説を進めさせていただきます。受験で合格“する”か“しない”かは、“降る”か“降らない”と同様に２つに１つです。ある受験指導の先生が、受験生Ａが合格する確率は 90%、受験生Ｂの確率は 40%など言っていることと同様です。ここで、受験指導の先生によって合格確率が 60%と判断された受験生 10 名を集め、その中で、実際に合格した受験生がおよそ６名いれば、この受験指導の先生の予測は的確であると評価されることになります。

これを念頭に、気象庁が発表している降水確率の予報成績を示すグラフをご覧ください。赤線近くに来るのがより良いのですが、中には離れているところもあるようです。

“降る”か“降らない”を的確に言い当てることができないので、起こりうる“確かさ”を確率で示しているのであって、その利用においては何パーセントだから雨具を用意すべきだというものでもありません。今日は晴れ着で出かけるので、いつもより少ない確率でも雨具を持って行くことにしようなどと、皆様それぞれの実情に合わせて“降水確率”をご活用いただけばと思います。

時と場合に応じて、降水確率を上手にご活用下さい

問い合わせ先
危機管理課災害対策係　電話　２２７４

令和４年１月１１日
危機管理課発行